

あやべ 市議会だより

No.141

2023年(令和5年)
5月発行



多言語対応サイトへ



《写真》綾部八幡宮「お田植式」
4年振りに開催



新たな未来に向けて、 夢や希望を紡ぐ予算を可決



令和5年3月定例会を2月27日から3月24日までの26日間の会期で開催しました。

本定例会では市長から提案された議案40件を審議しました。議案は、いずれも原案のとおり可決・同意したほか、議会から提案した議案2件を可決しました。(採決の結果は5～6ページに記載)

上程された議案は、3つの常任委員会に付託され審査しました。その内容は次のとおりです。

予算決算委員会

令和5年度当初予算・令和4年度補正予算 ～新たな未来に向けて、夢や希望を紡ぐ予算～

●予算審査のあらまし

予算決算委員会は、当初予算及び補正予算の審査を3月15日から22日までのうち5日間行いました。

付託された議案は令和5年度当初予算11件(一般会計1件・特別会計7件・公営企業会計3件)、補正予算8件(一般会計1件・特別会計4件・公営企業会計3件)と令和5年度補正予算1件(一般会計1件)の計20件です。

なお、3月14日に総括質疑を行い、14人の

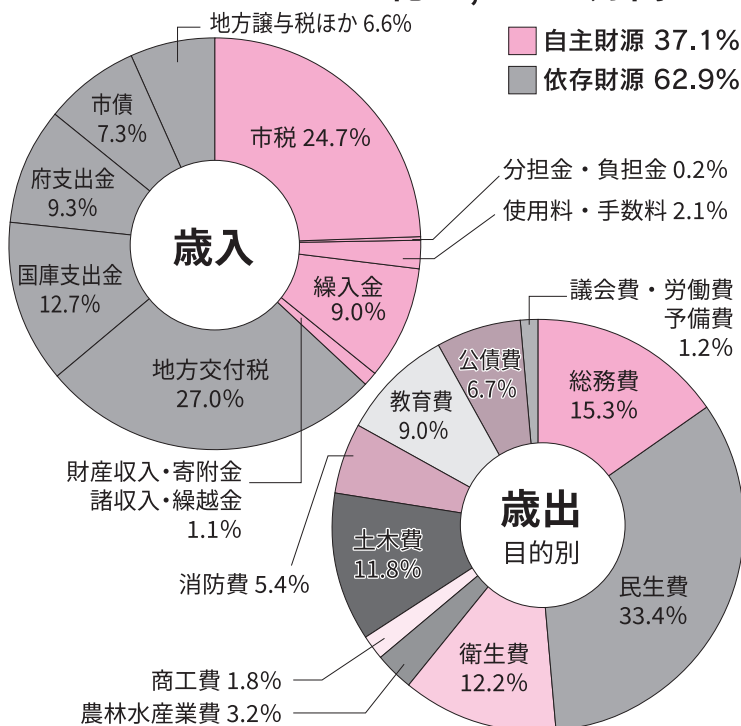
委員から28件にわたる質疑がありました。

●令和5年度当初予算の内容

一般会計の予算規模は、186億1,769万円 で前年度対比2.9%増の過去最大規模となっています。さらに、特別会計7件(総額93億8,687万円、2.7%増)と公営企業会計3件(総額128億9,359万円、2.3%増)を合わせた全11件の規模は408億9,815万円となり、前年度対比2.7%増の予算が編成されています。

令和5年度 歳入歳出の状況(一般会計)

《歳入・歳出》186億1,769万円



新年度予算の主なもの

●一般会計予算

- インフルエンザ予防接種補助事業費(1,458万円)
生後6カ月から中学3年生までのインフルエンザ予防接種費の保護者負担の軽減を図る。
- 小学校・中学校等給食費補助事業費(1,953万円)
子育て世代の支援として市内の幼稚園、小学校、中学校の給食費に係る保護者負担の軽減を図る。
- 市民プール改修事業費(1億5,000万円)
老朽化した施設の改修を行い、適切な施設の維持管理及び地域のスポーツ活動や交流の促進を図る。
- 新都市公園整備事業(1億5,800万円)
旧市民センター跡地に都市公園を整備し、様々な世代の人々が集い、新たなにぎわいを生み出す場所として、都市空間の充実を図る。
- 認定農業者経営発展支援事業費(1,000万円)
持続可能な地域農業の推進と農業経営力の向上を図るため、認定農業者の経営を発展させる取り組みに対し支援を行う。

■ 主な意見

審査では、執行部からの説明に対し、委員が質疑を行い、その後、意見調整と採決を行いました。各委員の主な意見は以下のとおりです。

■ 一般会計

- 西部地域振興センター整備事業費を高く評価する。西部地域住民の安全・安心の確保及び利便性の向上に期待すると共に、集落支援員を配置し、地域振興のきめ細やかな対応を行われたい。
- 地域子育て支援拠点施設整備事業費を高く評価する。雨天でも遊べる子どもの遊び場及び子育て世代の交流の場の提供と交流の促進に期待する。
- こども発達支援拠点施設整備事業費を高く評価する。障害のある人もない人も共に暮らす共生社会の実現に向けた障害児等の地域社会参加及びインクルージョンの推進に期待する。
- 保育園等での使用済み紙おむつの処理費用に対する支援を高く評価する。保護者・保育所等の職員の負担軽減を期待する。
- インフルエンザ予防接種補助事業費は、子育て世帯への経済的負担が軽減されることを高く評価する。
- 労働者の実態調査を行うと共に、賃上げの手立てを取るよう国・府へ求めること。
- 肥料高騰への支援をはじめ、本年度は認定農業者が行う取組に対して、一般財源を活用した支援を評価する。
- あやべ水源の里トレイルラン開催事業費を評価する。全国各地からの参加で、上林地域のにぎわいづくりとスポーツ観光の推進に期待する。
- 製造業を支援するものづくり企業振興補助金の拡充を高く評価する。特に新規事業である設備導入支援事業によって、生産性向上設備の導入が促進されることを期待する。
- 新都市公園整備事業費を高く評価する。誰もが気軽に訪れることができ、幅広い世代が多目的に活用できる施設の整備による住環境の向上に期待する。
- 下水道接続補助金について、対象となる未接続世帯に周知を徹底すると共に、今後の下水道料金の減免制度の必要性についてしっかりとした検討を行うこと。
- 西部地域消防防災拠点施設整備事業費を高く評価する。西部地域における災害対応及び防災力の向上に期待する。
- 不登校等対応事業費は、新たに配置される支援員とスクールソーシャルワーカーが子どもたちと保護者に寄り添い、生徒が卒業後も安心した生活が送れるよう取り組むこと。
- 学校給食補助事業費において、経済的負担が増加しており、子育て支援のための補助を評価する。給食は教育の一環であり無償とすること。
- 市民プール改修事業費は、過疎対策事業債で巨額の予算を組まれ、大改修されることを大いに評価する。

■ 市立診療所等特別会計

- 更なる地域医療の充実を図られたい。

■ 農林業者労働災害共済特別会計

- 農林業者の生活の安全と福祉の増進を図られたい。

■ 国民健康保険特別会計

- 保険料据え置きを努力を引き続き行うこと。

■ 介護保険特別会計

- 高齢者も現役世代も安心できる介護保険制度のため、また介護職員不足解消のため国庫負担の増額を強く求めること。

■ 後期高齢者医療特別会計

- 窓口負担の2倍化による受診抑制など、高齢者の実態をよくつかみ、負担増に反対すること。

■ 住宅・工業団地事業特別会計

- 住宅分譲地の早期完売を図られたい。

■ 上水道事業会計

- 広域化の協議内容は、十分な情報開示を行うこと。

■ 下水道事業会計

- 今後も一般会計からの巨額の繰入れが見込まれることから、雨水対策も含め、市民に対して情報公開を進め、開かれた議論を行うこと。

■ 病院事業会計

- 分娩再開のため、助産師確保の早急な対策を講じること。

●令和4年度補正予算の内容

一般会計1件と特別会計4件、公営企業会計3件の合計8会計で補正を行い、総額1億6,045万円の増額となりました。

一般会計では、新図書館整備事業費、地域交流センター整備事業費、地域子育て支援拠点施設整備事業費を合わせて、2億6,880万円の増額、府営ため池等整備事業費として1,500万円が増額、小学校大規模改修事業費として1億1,945万円が増額、また、指定管理者制度運営費として4,505万円が増額されまし

た。他に事業費の確定見込みによる補正です。

●審査の結果

採決の結果、令和5年度一般会計及び下水道事業会計の2議案は賛成多数となり、これらを除く18議案は全員賛成で可決となりました。

なお、本会議での採決に際しては、賛成多数となった議案に対し、塚崎泰史議員から反対、藤岡康治議員から賛成の立場で討論がありました。

(7ページに要旨を掲載)

総務教育建設委員会

消防団員の活動環境を整備

●社会環境の変化などに柔軟に対応

消防団員が長期出張や介護、育児などのやむを得ない事情により、一定期間消防団活動が困難となる場合、一時的な理由により退団することなく、消防団員としての身分を有したまま、活動を休止できる制度を設け、復職しやすいよう活動環境を整えるため、条例の改正を行おうとするものです。

質疑の中で、「年度途中で転勤などで休団するようなことになった場合、それまでの団歴は加算されないのか」との質問に対し、「退職報償や表彰の規定もあるので、規定に合わせる形となる。休団中の団歴は加算されないが、休団までの期間は加算となる」との答弁がありました。

特に意見もなく、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

●新規1路線を認定

井倉横縄手線、延長約86メートルで、開発により建設された道路を認定するものです。

その他、6議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。



市道認定の現地調査(井倉横縄手線)

産業厚生環境委員会

中上林村おこし研修館を地域移管へ

●綾部市農業集落等集会施設の設置及び管理に関する条例の一部改正

中上林村おこし研修館を地域で活用いただくため、条例を改正し、用途廃止しようとするものです。

質疑の中で、「篠田集会所ほか他の施設も国庫・府補助で造られた施設だが、地元が移管してほしいと要望された場合は改修して無償で払下げしてもらえるのか」との質問に対し、「他の施設については、公共施設マネジメントの方針を基本とし、施設ごとに判断するもので、すべてを改修して譲渡を約束するものではない」との答弁がありました。また、「実際には公会堂として使っている状況で、老朽化しているものを地元が要望すれば直していただけるのか、その基準はどうなっているのか」との質問に対し、「中上林村おこし研修館については、上林山荘を運営していた株式会

社緑土から売上減少により指定管理を外してほしいと申し出があったときに、市として運営していくのは難しいため、廃止すべく中上林地区自治会連合会と協議してきた経過がある。上林山荘の廃止は理解されたが、地元自治会から何とか存続してほしいとの要望を受け、最低限の改修をして譲渡することとなったもの。他の施設については、自治会連合会ではなく営農組織が管理されているところであり、初期の目的を達成したことから個別に協議して進めていきたいと考えており、必ず改修して譲渡するものではない」との答弁がありました。

特に意見もなく、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他、7議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

議決結果の一覧

《 全員賛成で可決・同意した議案 》

件 名		結 果
議第2号	個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について	可 決
議第3号	行政不服審査会条例の一部改正について	可 決
議第4号	情報公開条例の一部改正について	可 決
議第5号	公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の一部改正について	可 決
議第6号	UIターン者定住支援住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可 決
議第7号	市立幼稚園設置条例の一部改正について	可 決
議第8号	子ども・子育て会議条例の一部改正について	可 決
議第9号	子ども・子育て支援法に基づく過料に関する条例の一部改正について	可 決
議第10号	共同集会所等の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可 決
議第11号	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可 決
議第12号	家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可 決
議第13号	放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可 決
議第14号	国民健康保険条例の一部改正について	可 決
議第15号	農業集落等集会所の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可 決
議第16号	消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部改正について	可 決
令和5年度当初予算		
議第18号	市立診療所等特別会計予算	可 決
議第19号	農林業者労働災害共済特別会計予算	可 決
議第20号	国民健康保険特別会計予算	可 決
議第21号	介護保険特別会計予算	可 決
議第22号	後期高齢者医療特別会計予算	可 決
議第23号	駐車場特別会計予算	可 決
議第24号	住宅・工業団地事業特別会計予算	可 決
議第25号	上水道事業会計予算	可 決
議第27号	病院事業会計予算	可 決
令和4年度補正予算		
議第28号	一般会計補正予算(第9号)	可 決
議第29号	国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	可 決
議第30号	介護保険特別会計補正予算(第3号)	可 決
議第31号	後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可 決
議第32号	駐車場特別会計補正予算(第1号)	可 決
議第33号	上水道事業会計補正予算(第2号)	可 決
議第34号	下水道事業会計補正予算(第2号)	可 決
議第35号	病院事業会計補正予算(第2号)	可 決

件 名		結 果
令和5年度補正予算		
議第37号	一般会計補正予算(第1号)	可 決
その他議案		
議第36号	市道路線の認定について	可 決
人事案件		
諮第1号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同 意
諮第2号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同 意
諮第3号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同 意
諮第4号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同 意
議会提案の議案		
議会第1号	議会個人情報保護条例の制定について	可 決
議会第2号	議会基本条例の一部改正について	可 決

《 賛否が分かれた議案 》

※議長は採決に加わっていません。

(賛成 : ○ 反対 : ×)

件名・結果	議員	民 政 会					創 政 会					共 産 党		あやべ みらいの		公 明 党	
		本 田 文 夫	片 岡 英 晃	安 藤 和 明	酒 井 裕 史	藤 岡 康 治	柳 原 秀 一	高 橋 輝	松 本 幸 子	渡 辺 弘 造	梅 原 哲 史	後 藤 光	井 田 佳 代 子	吉 崎 篤 子	塚 崎 泰 史	中 島 祐 子	河 北 ひ さ 子
議第17号	令和5年度一般会計予算	可決			○				○				×		○		○
議第26号	令和5年度下水道事業会計予算	可決			○				○				×		○		○

令和5年6月定例会の日程予定

6月定例会は、6月19日から7月7日までの19日間の会期で予定しています。

6月19日(月) 本会議(議案上程)
26日(月) 請願受理締切り(正午)
27日(火)~29日(木) 一般質問
30日(金) 総務教育建設委員会

7月3日(月) 産業厚生環境委員会
4日(火) 予算決算委員会(総括質疑)
5日(水) 予算決算委員会(予算審査)
7日(金) 本会議(採決)

討

論

反対

日本共産党
塚 崎 泰 史

命、暮らしの砦として役割発揮を

国のコロナ対策への支援が縮小されるなか、再び感染拡大すれば、市民の命を危険にさらす。また、物価高騰の影響から暮らしと生業を守ることも、更に急がれる。にもかかわらず、コロナと物価高に苦しむ市民の願いと実態に十分応えたものになっていない。今こそ命と暮らし・生業を守る最後の砦としての地方自治体の役割発揮を強く求める。国の原発回帰、5年間で43兆円の防衛増税は、市民生活を根底から脅かし、かつ、地方自治の発展もない。反対の意思を表明すべき。また、コロナ・物価高騰で市民生活が大変な中、下水道料金の値上げはすべきでない。平成30年に提出した「下水道施設の改築に係る国庫補助の継続に関する意見書」に基づき、市として強く国庫補助を要請すべき。

議第17号
議第26号

令和5年度綾部市一般会計予算
令和5年度綾部市下水道事業会計予算

賛成

民政会
藤 岡 康 治

創意工夫された大規模な予算編成

一般会計当初予算は過去最大となる186億円台、全会計の総額は過去2番目の規模となる408億円台で、前年度対比2.7%増となっており、先送りの事業を遂行するための予算を評価する。下水道使用料改定に伴う市議会での附帯決議への対応については、清山荘の改修や議場のバリアフリー化など、高齢者や障害者への施策の充実、給食費の軽減や生後半年から中学3年生までのインフルエンザ予防接種費の一部助成など、配慮もあつた。

この予算を支持し通すことは、市民の生命・財産・暮らしを守り、子ども達の未来を守ることであり、可決いただくことを強く求める。

1月臨時会を開催しました

令和5年1月18日、19日の2日間の会期で、臨時会を開きました。提案された議案は「令和4年度綾部市一般会計補正予算（第8号）」で、出産・子育て応援事業費及び民間保育施設、物部保育園の送迎バスや小学校スクールバスに係る安全対策事業に要する経費で、補正額は4,644万円です。予算決算委員会に付託し審査を行い、本会議において全員賛成で可決となりました。

議会情報公開条例に基づく公文書の開示実施状況

令和4年4月1日から令和5年3月31日までの公文書開示請求は2件でした。議会に関する情報開示については、議会事務局（電話42-1259）へお問い合わせください。

市政を問う

代表質問

西部地区に行政サービスの拠点



民政会 本 田 文 夫

Q 西部地区支援センター及び西部地区消防防災拠点施設については、私が平成30年9月に綾部市議会議員になってから、議員活動の重要目標としていたことから、毎年一般質問、総括質疑等で要望してきた。特に西部地区消防防災拠点施設(西部分遣所)については、西部地区開発協議会の50年来の要望でもあった。今回、令和5年度当初予算に実施設計の予算が計上されているが、施設の概要は。

A 西部地区振興センターについては、上林いきいきセンターと同様に、住民票の写しや印鑑登録の証明等の交付をはじめ、公共料金の収納、あやバス乗車券の販売など、行政サービスの拠点として、また、消防防災拠点施設については、消防分遣所として、消防や救急業務に対応できるように、車両の配備や消防職員の待機室をはじめ、災害時の待機場所として

使用できる交流室を配置し、西部地区の消防防災の拠点として、物部営農指導センター西側に隣接した市の土地に整備をしていきたいと考えている。

Q 令和4年8月から実施された西部地区期日前投票所も含め、西部地区の行政サービスや利便性の向上が図れ、西部地区の皆様は大変喜んでおられる。そこで、今後のスケジュールはどのようになっているのか。

A 令和5年度に実施設計、令和6年度から工事着工、令和7年度の供用開始に向けて取り組んでいきたいと考えている。



夢や希望を紡ぐ予算について問う



創政会 柳 原 秀 一

Q 令和5年度の当初予算は、感染症、物価エネルギー高騰対策の一部を政策に残しつつも、第6次綾部市総合計画前期計画の折り返しの年として、計画に上げた施策を確実に実施していくと共に、ウィズコロナ、アフターコロナの新しい未来に向かって、かじを切る予算であると考えている。この視点を踏まえて、予算編成の基本的な考え方について問う。

A 第6次綾部市総合計画に掲げる多くの施策を確実に実施していくために打ち立てた主要5項目として、①子育てと教育を応援するまちづくりを目指し、ハード、ソフトの両面で、新たに多様な施策を積極的に推進。②デジタルトランスフォーメーションによって行政の効率化と市民生活の利便性の向上を目指す取組。③脱炭素社会に向けたグリーントランスフォーメーションの推進。④これまでに経験して

きた自然災害や感染症を教訓とした安全安心のまちづくりの推進。⑤コロナ禍による田園回帰の風を受け新たな田舎暮らしの実現を推進。これらを踏まえ、エネルギーや物価高騰、感染症予防対策にも対応できる予算を編成した。

Q 西部地区振興センター設置に伴う、集落支援員とコミュニケーションの配置についての考えを問う。

A 集落支援員と合わせてコミュニケーションの設置を検討しており、地域住民の健康や暮らしに寄り添うことで、地域の安心につながる取組を進めていきたい。



3月7日から9日の3日間にわたって16人の議員が市政全般について質問を行いました。なお、7日は各会派の代表4人が質問を行いました。ここでは代表質問と一般質問の要旨を掲載します。(掲載は登壇順)

QRコードからアクセス

QRコードを読み取ると、一般質問の録画映像がご覧いただけます。

代表質問

新型コロナウイルス対策縮小による影響は

Q 新型コロナウイルス感染症5類移行により、対策は縮小され、中小企業や事業所、医療機関、介護施設等が経営困難になり経済はますます疲弊するのではないかと。医療や福祉、教育分野で行われてきたコロナ対策は今後どうなっていくのか。

A 国において、これまでの新型コロナウイルスにおける政策や医療措置等を見直すため議論がされているところ。国の方針が示され、府の対策本部会議が開催される予定。国・府の動きに呼応して、市対策本部会議を開催し、医療福祉等各分野の今後の具体的な取組を協議する。

Q 市民にお願いしたアンケートや全国社会福祉協議会報告で、8割の方が生活状況は厳しく生活保護利用には至らないが、コロナ禍以前から生活困窮状態であると答えている。エアコンはつけない、10円でも安い物を、入浴は2日に1回などアンケートへの記述も多く届いている。市民応



日本共産党 井田 佳代子

A 援の施策や支援拡充の考えは。

A 必要に応じて市独自の緊急経済対策会議を開催する予定。新年度予算で、保育所、学校給食一食あたり50円の支援、保育所等使用済み紙おむつ処分費用支援など、新たな事業で市民生活を支える。生活困窮世帯へは、社協と連携しながら必要な支援を継続する。中小事業者へは、府の融資制度利用者に信用保証料一部補助を創設。財源確保しながら必要な支援に努める。

Q ゼロカーボンシティ達成のための調査結果、目標は。

A 現在、調査結果の最終取りまとめ中。省エネ推進策と再エネ導入推進策を中心にまとめる。

下水道減免、小規模特認校検討を



みらいのあやべ 中島 祐子

Q 令和5年度予算では、市民の所得は回復傾向で個人市民税の増収を見込んでいるが、あらゆる物価が値上がりし、今後とも家計が苦しくなると感じている市民は多い。小規模事業者も非常に厳しい経営環境にある。12月議会です下水道料金の値上げの条例改正に伴い、「低所得世帯をはじめ子育て世帯、障害者等に対する配慮を行うこと」との附帯決議を議会として可決した。生活困窮者等を対象とした下水道使用料の減免制度の検討は。

A 生活困窮者に対しては、下水道使用料のみで救済措置を行うのではなく、行政全体で取り組むべき課題である。令和5年度予算には、保育所等の副食費や小中学校の給食費の軽減、生後6か月から中学3年生までのインフルエンザ予防接種の一部助成、低所得世帯を対象とした下水道の接続に対する支援制度を創設するなど、低所得世帯をはじめ子育て世帯

などに向けた新たな施策を行うための予算を計上している。
Q 小規模特認校とは、小規模校で自然環境や地域住民との交流など特色ある学校運営を行い、市内の学校からの通学を認めることで統廃合によらない学校規模の適正化を図ろうとするもの。今後の学校適正配置の検討において選択肢の一つとして加えるべきでは。

A 小規模特認校にもメリットとデメリットがある。学校の地域における役割は大きく、今後、学校の適正配置を検討する中で小規模特認校制度について調査研究し、保護者や地域の方々と共に考えていきたい。





人口問題を問う

創政会 渡辺 弘 造



Q 昭和25年には5%に満たなかった全国の高齢化率が、令和元年度には28.4%と急速に進んできました。綾部市では全国平均を約

10%上回っている。人口減少対策として、これまで移住対策に取り組み成果を上げて来られたが、今後は移住対策だけではなく若い人たちへの就業援助や結婚、出産、子育てに対する支援が必要になると考える。特に周辺地域の減少が目立つが、市長はブドウの房に例え、クラスター戦略を以前から唱えている。人口バランスを含め今後の対策は。

A 就業支援については、毎月市役所で京都若者サポートステーションを開催し、2月10日には面接会を開催した。また、婚活については市が直接婚活活動を行うのではなく、実施する団体に対し支援している。3月議会にも子育て支援充実のため、様々な施策を上程した。周辺地域の人口対策には、行政の取り組みだけではなく、それぞれの地域がどうするべきか、なにか出来るか当事者意識を持つて危機感を共有出来るかが重要である。周辺集落が、ネットワークを築きながらそれぞれの特性に応じた活性化策や定住促進策の展開を共に考え進めて行く。



里山交流研修センターの取組は

創政会 後藤 光



Q 里山交流研修センターは、施設の建て替え工事とコロナ禍で様々な工夫を凝らしながら地域の活性化など、事業運営に大変な

努力をされてきたと考えるが、令和4年度の事業の実施状況は。
A 令和4年度は、交流事業として、農家民宿PR動画の作成、小畑城跡の整備事業など、地域資源のブラッシュアップや情報発信に取り組んでいた。また、里山交流大学では、東京のNPO法人と連携し、里山生活をテーマに農家民宿を活用した宿泊型の講座を開催するなど、首都圏との交流事業も再開できた。

Q 今回、新たに設置される coworking スペースは注目の一つで、そこでの農村都市交流にも期待している。施設が整備されることで、新たな事業にも取り組めると考えるが、関係人口の拡大に向けた新たな取組は。
A 大学、企業連携の更なる拡大を図ると共に、ワーケーション等に取り組みむほか、農家民宿や地域の皆さんと連携し、豊かな里山の生活に触れられる農村体験プログラムの造成など、新たな事業を展開予定。更に、森の京都DMOと連携し、教育体験旅行の受入れや、ジビエを活用した集客事業などにも取り組んで、関係人口の拡大と定住促進につなげていく。



憲法第九条と平和の歩みを問う

日本共産党 塚崎 泰史



Q 戦争と全ての暴力を否定した世界連邦都市宣言は、市の全施策の土台か。
A 基本的には、そのように考えている。

Q 本市72年の平和の歩みから、今日的に受け継ぐ核心は日本国憲法第九条の精神と考えるが、市長の考えは。
A 日本国憲法第九条の戦争放棄の宣言が根底にある。その精神については、引継いでいかなければいけないと考える。
Q 予算案にある保育園等や小中学校の給食費一部補助事業は、循環型地域経済にも貢献し得ると考える。拡充の考えは。
A 拡充は、地域経済活性化につながることは喜ばしいが、子育て環境の観点と持続的な財政運営の観点とのバランスを慎重に検討すべき問題と考える。

Q 小中学校教職員の超過勤務の背景は。
A 共通して授業準備時間の確保の難しさがある。また、生徒指導上の課題、支援が必要な児童生徒の対応、保護者や地域の対応、事務事業など、負担は大きく質的にも量的にも難しくなっている。
Q 教職員が心身共に健康で教育実践できるように、市の責任で安全衛生委員会を確立すべきでは。
A 50人以上の事業所を対象とした安全衛生法の規定に満たないため、今のところ設置する考えはない。

民政会 藤岡 康治

婚活支援の前に恋活導入の考えは



Q 市において、婚活支援に関する補助金はあるのか。また、補助金の条件や過去の取組、他の市町村の状況は。

A 市では近隣市に先駆けて婚活支援事業の補助金を導入している。18歳以上の独身男女を対象に20人以上募集し、そのうち半数以上が市民であることが条件となっており、出会いの場や結婚を推進する事業に対して補助金を支給する。補助金の額は1回当たりの上限が10万円で、年間補助額の上限は1団体当たり25万円としている。過去の取り組みについては、平成30年度以降に11件の婚活事業が実施された。なお、近隣市では、同様の補助金は導入されていない。

Q 結婚を前提とした活動である婚活において、女性が男性に求める年収が300万円以上という厳しい数字があることが指摘されている。また、婚活イベントでは中身を見ずに単純な告白の場と化していることもある。今後、募集人数や告白の仕組みを変え、SNSアドレスや電話番号交換を通じてお互いを知り合う機会を増やすことで、ハードルを下げることでできるのでは。

A 今後もこの補助制度を活用して婚活支援に取り組んでいただきたい。

創政会 梅原 哲史

森林環境譲与税の有効な活用とは



Q これまで徴収されてこなかった森林環境税は、令和6年度から、国税として一人年額1,000円が賦課徴収される。こ

れにより多くの関心が集まり、森林整備の新たな知恵が方々から出てくる可能性があり、伐って、使って、植える健全な森林の整備、保全が再び息を吹き返すことが期待される。森林環境譲与税と従来の予算事業による既存施策の双方を推進することで、間伐、人材育成、担い手の確保、市内産木材利用などの一層の促進を図るチャンス到来と捉え、現在、5,000万円を超える規模となった基金を有効に活用するべく、次年度以降、予定されている新たな計画は。

A 市内産木材を中心とした地域材の活用は、伐って、使って、植えるという森林整備につながり、これまで積立ってきた基金は、公共施設の木造化や木質化に活用する。令和5年度は駅北の複合施設で、市内産木材を中心に、壁面の装飾柱、カウンターなど来館者が見て、触れることができる部分に使用し、木に対する親しみを持っていただけのような施設整備を行う予定である。今後も市内産木材を中心とした地域材の活用で、木造化や木質化を図り、循環する森林整備、循環型林業につなげていく。

みらいのあやべ 河北 ひさ子

有害鳥獣問題について問う



Q 年々、対策は強化してきたが、イノシシ、鹿の被害はひどくなるばかり。近年の侵入防止柵の設置状況及び平成23年度に設置さ

れた、電気柵からメッシュ柵への更新状況はどうなっているか。

A 近年の侵入防止柵の設置状況は、令和2年度17団体、令和3年度29団体、令和4年度21団体で、平成23年度に設置され、耐用年数を迎えた電気柵の更新は、78団体が完了し、令和5年度は2団体を予定している。なお、耐用年数を迎えても、直ちに更新が必要になるものではなく、補修を行うなどきめ細やかな維持管理をされながら使用されている。

Q 狩猟免許や猟銃取得の補助をされているが、猟友会の方だけに頼るのも限界がある。国制度の活用により、地域全体での捕獲サポート体制構築強化を支援する取り組みが必要と考えるがいかがか。

A 国においては、捕獲体制を強化していくため、捕獲サポート体制構築の支援が令和3年度からつけ加えられた。本市としても、有害鳥獣捕獲隊員と地域住民、また、農業者との連携による有害鳥獣捕獲のサポート体制を構築することは、大変有効な手段と考えており、現在、国の支援事業の活用も含め、検討を行っている。



健康診断とがん検診について問う

公明党 渡辺 小百合



Q 健康診断の目的は、死亡原因の上位であるが、がんの早期発見及び心血管疾患の予防であり、がんを含めた罹りやすい病気の危険因子のチェックである。健康診断等の検診率向上に向けた取組は。

A 検診の受診率向上に向けて、広報ねつとやライン、メールマガジンによる広報、あやバス等へのポスター掲示などに加えて、受診しやすい体制づくりとして、集団検診の休日実施、託児所の設置、特定検診無料クーポンの配布などを行っている。検診の案内パンフレットや申込受付方法、受診勧奨のタイピングや回数などの検証を行い、ウェブ申込みを取り入れるなど、あらゆる手法を用いて受診しやすく、検診の重要性を理解いただける環境づくりに取り組んでいる。

Q がんは2人に1人が罹患する病気と言われているが、健康診断やがん検診により、早期発見、早期治療で治る。しかし、治療を行う上で経済的にも精神的にも負担があり、がん治療に伴い外見の変化も起こる。がん患者へのアピランス（外見）支援に対する本市の見解は。

A 本市では、ウィッグや帽子、乳房補整下着などを購入する費用の補助制度は行っていないが、今後情報を集めるなどして研究していきたい。



5類移行後も十分な支援を

日本共産党 吉崎 篤子



Q 医療・介護・福祉・保育・学校・放課後学級における新型コロナウイルス感染症による感染の状況は。

A 第8波時は、各施設とも感染者が増えた。現在は、大幅に少なくなっている。

Q 新型コロナウイルス感染症は減少傾向にあるが、収束していない中で、5類移行後は施設の感染対策物品等の支援はどうか。

A 令和5年度も国の支援事業を活用し予算化する。消毒液や衛生物品の提供の支援は継続する。

Q 府の医療子育て支援医療制度の拡充により、本市の18歳までの拡充の見解は。

A 府が3歳から中学生までの通院について拡充、市の財政負担が軽減されたので、子育て支援策に活用した。市の子育て支援医療制度拡充についても、今後の府や他市町村の状況を見ながら検討する。

Q 市の4割以上の会計年度任用職員の処遇改善は。手当により、収入は増えるが一時的なため、基本賃金を上げるべきではないか。

A 会計年度任用職員制度の移行時から処遇改善を図ってきたが、扶養の範囲内を希望される場合もある。今後も、国の基準に基づいて適正に対応する。



少子化の中で市内小中学校再編は

民政会 安藤 和明



Q 出生数の減少により市内小中学校の児童・生徒が更に減少することが想定されるが、教育委員会では6、7年後をどのように

分析しておられるのか。

A 市内の小中学校の児童・生徒数は、令和4年5月1日現在では、小学校の児童数が1,378人、中学校生徒数752人、6年後の令和10年度の見込みは、小学校児童数が1,214人で約12パーセント減、生徒数は630人で約16パーセント減となる見込みだ。また、令和10年度には小学校では10校中5校、中学校では6校中1校において複式学級を編成する見込みであり、学校の小規模化がさらに進行することが予想される。

Q 将来をしっかりと見通して、学校を再編し、学区内は通学バスを配備して一定の固まりのある設備の整った小中学校へ統合整備していくことも将来必要ではないか。行政・教育委員会としてベターな選択を市民に提示していく必要があるのではないか。

A 児童・生徒数が減少する中で、集団での学びなど、学校教育の目的を果たすことが難しくなることが予想されるため、学校の在り方について保護者や地域の方々の声を聴き共に考えていきたい。

市民プール改修事業について問う



ロッカーを入れ替えていただけませんか
と要望したところ、当初予算で巨額の予算を組んでいただいた。この整備内容の詳細は。

Q 昨年の6月議会で、市民プールは昭和46年7月に建設され、51年経過していて老朽化が著しい。せめて更衣室に換気扇を付け、

A 根幹となる濾過器3台の更新、50mプールの循環配管の改修、50m・25m・幼児用プールのプール槽及びプールサイドのシートの張替え、更衣室への換気扇及び照明の設置、トイレの一部洋式化、更衣室のロッカー、管理棟内の備品の更新を予定している。財源には有利な過疎対策事業債を活用する。

Q 市民プールは中筋小学校の児童達、中筋幼稚園の園児達も6月頃から水泳授業等で利用している。工事期間はどのようにお考えか。

A 令和5年度の市民プール営業終了後の9月から来年3月までを予定している。令和6年度夏から供用開始を目指す。

Q 障害児をもつ保護者の方からの要望だが、車椅子と大人が入れる広さの多目的室を1つ設置していただけないか。

A 新たに多目的室を設置するのは困難だが、現在の更衣室の形状変更で対応するなど、設計の段階で検討していきたい。

綾部に合った部活動の地域移行を



化系クラブについても同様の動きをとられようとしている。令和5年度当初予算に部活動地域移行に関する予算が計上されているが、その内容は。

Q 部活動の地域移行は、令和4年6月に公立中学校の部活動について、休日の活動から地域や外部へ移行することを提言され文

A 協議会を設置し、活動の実施主体やスケジュールなど具体的な検討を開始する予定としている。協議会のメンバーは、地域スポーツや文化活動団体、学校関係者、文化・スポーツ振興担当、教育委員会等を想定しており本市に合った地域移行の体制や方法等を検討していきたい。

Q 中学時代から部活動を通して様々なことを経験してきた者として、今の生徒や未来の子ども達にも、部活動を通して大きく成長してもらいたいという思いを持って、部活動の地域移行については賛否両論、様々な議論がされているが、教育長の御所見は。

A スポーツ、文化活動は楽しさ、喜びを感じることに本質があり、生徒が多様な体験をする機会を確保するためにも部活動の地域移行を進めたいと考えている。協議会において、関係各所からの意見をもとに協議を重ね、綾部スタイルでの地域移行を進めていきたい。

府北部地域の要約筆記者の充実を



周年を迎える。要約筆記者は聴覚障害のある人には有効なコミュニケーション手段で、本市は要約筆記者養成前期講座を実施しているが、近年の受講状況は。

Q 京都府中途失聴・難聴者協会綾部支部が設立40周年を迎えたが、連携する要約筆記者サークルのみならず、今年6月に設立40

A 令和2年度から4年度までの3年間で19名の方が受講された。前期受講後に後期を受講して合格されたのは平成30年度と令和元年度に各1人という状況。

Q 要約筆記者には手書きとパソコンの2つがあるが、パソコン要約筆記者の講座は京都市や城陽市での受講が必要。本市においてはパソコン要約筆記者が不足している状況だが、今後はパソコン要約筆記者の需要も増える可能性があり、府北部での講座実施も必要と思うがいかがか。

A パソコン要約筆記者はパソコンの基本操作と文字入力速度が求められるなど難易度が高い。講座についても手書きより受講希望者が少ない状況であり、府北部では複数人でチームを組んでの実技が難しい傾向にある。今後、受講希望者が受講しやすい環境を整えるために府と連携を図りたい。手書き要約筆記者の活動環境を整え、手書き要約筆記者の活動環境を整えると共に、パソコン要約筆記者の養成のために働きかけを行いたい。

次世代からのメッセージ

～豊里小学校～

(令和5年4月取材)

第3回の小学校編は、豊里小学校へ広報広聴委員が訪問し、6年生の児童会8名の皆さんの声を聞いてきました。



学校のどんなところが好き？

- ・図書室があるところです。家にはないぐらい沢山の本があります。
- ・友達に会って遊べる場所。知らなかったこと、出来なかったことができるようになる場所が好きです。
- ・友達と会えたり、知らないことが知れる場所が好きです。
- ・先生と笑いながら楽しく過ごすところや、友達とわいわいして遊ぶところ。みんなで考えて、答えを出すことなど、学校でしか出来ないことがあるので、そんな場所が好きです。
- ・勉強するだけの場ではなく、人との関わり方を知れたり、友達になったり、尊敬する相手に出会えたりと、家族以外の人との関わりを学べてとてもうれしい。色々な考えを持った、色々な人と人間関係を学べてうれしい。
- ・運動場や廊下が広く、活動がたくさんできる。クラス内にぎやかで親しみやすい。クラスみんながとても親切にしてくれる場所が好きです。



綾部（地域）のどんなところが好き？

- ・田んぼなど、自然がいっぱいある場所です。
- ・自然豊かな場所や、近所の人との会話が多い場所が好きです。
- ・自然がたくさんあって落ちつく場所が好きです。
- ・自然豊かな場所で、色々な作物がある場所です。
- ・広くて快適、自然が多く陽当たりがよく明るい気持ちで過ごせる、農業がしやすい、空気がきれい、親切な人が多い、梅林公園などの観光スポットが多い場所が好きです。
- ・自然がたくさんあり、いろいろな生物に触れることができる。夜になると星がたくさんきれいに見える場所が好きです。

大きくなったらどんな仕事がしたい？（目標）

- ・建築士か看護師になりたいです。
- ・スポーツ選手になって綾部市を盛り上げたいです。
- ・ユーチューバーかパティシエになりたいです。
- ・特になければ、人の為になることをしたい。
- ・命に関わる大切な仕事である、助産師か看護師です。母が産産する時、助産師さんがいてくれて良かったという話を聞かせてくれました。人に寄り添い、人の役に立つ、やりがいのある仕事がしたいです。
- ・ディズニーランドでダンサーとして働くことです。海外で活躍できるひとになりたいです。

地域の人にありがとう！ 周りの大人に感謝していることは？

- ・自然を残してくれている場所です。
- ・毎日、登校時に道に立って見守ってくれていることです。
- ・いつも見守ってくれている場所です。
- ・毎日、登校を見守ってくださることです。
- ・毎日の見守り隊の皆さんのおかげで安全に登校できること、総合学習で見学に行かせてもらい、学んだことをみんなまでまとめられたことです。
- ・私たちの学校生活を温かく見守ってくださるところ。教育環境を整えてくださっている場所です。

取材を終えて



児童会に入ろうと思ったきっかけを聞かせてもらって、「自分たちで様々な取組みを考えて、自分たちが学ぶ学校を良くしたい！」と話してくれました。先生方の見守りの中、主体的に考え、しっかりと志を持って学校生活を送っている姿に大変感銘を受けました。

子どもたち皆さんが、登校時に見守ってくれる地域の方への感謝を話してくれ、地域の温かさや繋がりの深さがよくわかりました。小学校生活最後の一年を力一杯楽しんで、将来の目標に向かって邁進してください。私たちも応援しています。

編集後記

毎年3月定例会に開催していましたが日曜議会の代表質問は令和5年3月定例会から見直し平日に開催しました。議場で傍聴できるだけでなく、パソコンやスマホからも視聴できますのでぜひご覧ください。3月定例会では令和5年度当初予算等を、予算決算委員会にて慎重審議を行い、可決したところです。市議会といたしましても夢や希望を紡ぐ予算として、各事業が適正に執行されているか、しっかりとチェック機能を果たしてまいります。また、より多くの市民の皆様のご意見ご要望などをお聞かせいただくためには、どのような広聴活動をしていけばよいか検討を重ねているところです。

今後も、皆様に親しまれる議会だよりとなるよう努めてまいります。ご意見ご要望がありましたらお聞かせください。

編集／広報広聴委員会

◎松本幸子 ○中島祐子 後藤光 渡辺小百合 塚崎泰史 酒井裕史 片岡英晃 高橋輝 (◎委員長 ○副委員長)